Vol.28　3 度音程のダブル・ストップを弾いてみる

『10 分トレ』vol.28、始めていきましょう。

今回はタイトルにもある様に、代表的なダブル・ストップである、3 度音程のフレーズを弾いて行きます。

譜例としては、使うのは 1&2 弦のみで、スケールは C メジャースケールを使います。

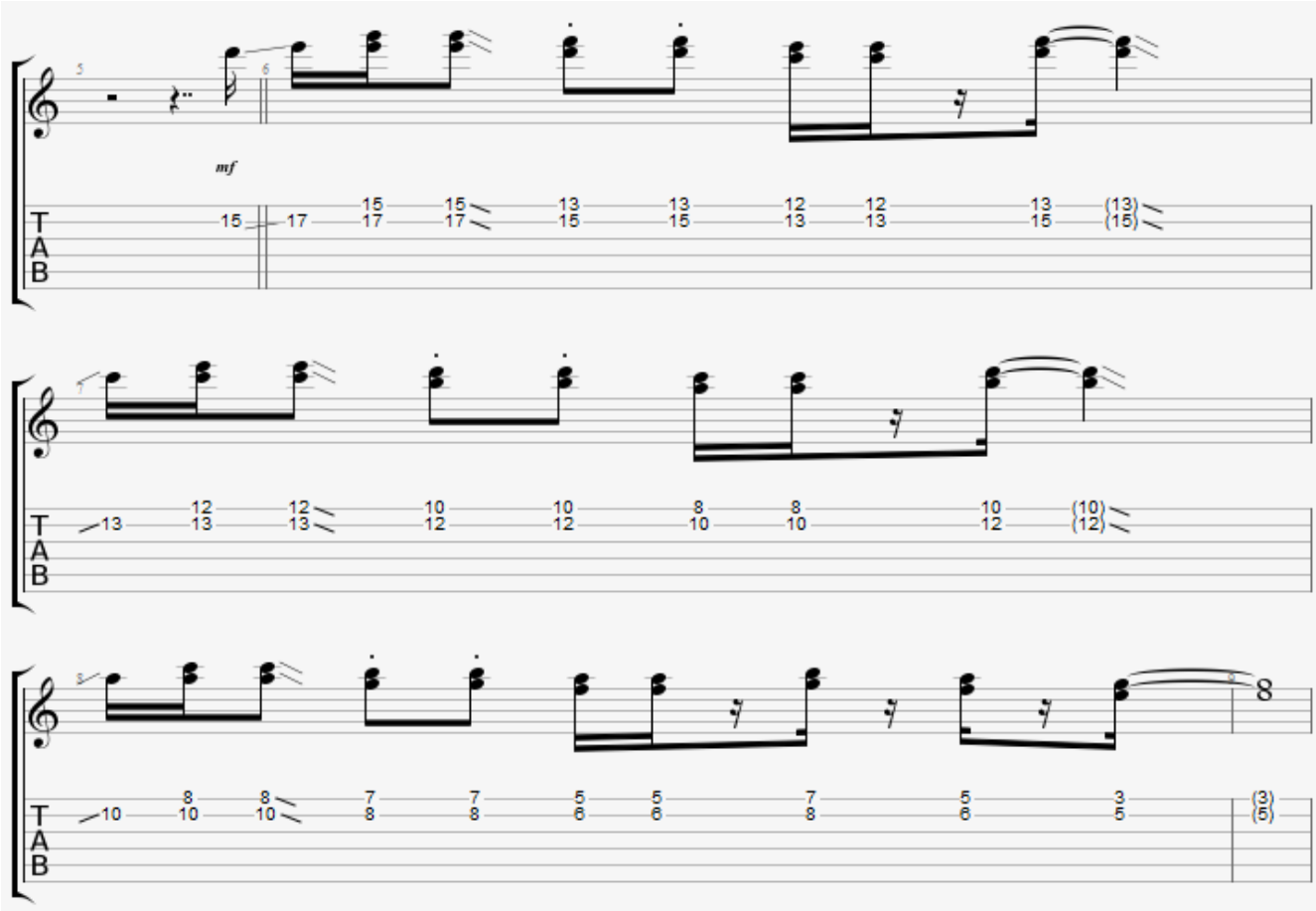
『3 度音程』なので、二つの音のインターバルが 3 度(M3rd or m3rd)になっているわけですが、ここでは 2 弦の音を基準に見て、その音に対して、1 弦で 3 度にあたる音を弾く、と。

3 度がメジャーになるか、マイナーになるかは、ダイアトニックコードの構成と同じです。

例えば、2 弦が C 音ならば 1 弦は E 音で M3rd(＝C or CM7 コードを想定)、2 弦が E 音ならば 1 弦は G 音で m3rd(＝Em or Em7 コードを想定)と言う事ですね。

それでは、譜例は以下になります。

譜例



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

この手のフレーズで有名なのはデイヴィット・T・ウォーカー等ですね。

譜例自体は、C メジャースケールを下っているだけですが、楽曲内で使う時は、バックのコードとのインターバルを考えながら音や動きを選んでいく事になります。

フレーズそのものが和音なので、単音のプレイよりも、使い方には気を使う必要がありますね。

デイヴィット・T の様に、ソウル系のジャンルで使ったり、コードプレイ寄りのバッキングや、フィル、ソロ、カッティングの素材にもなる動き(弾き方)なので、興味のある人は研究してみましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved